2023年度外部研究評価委員会における主要意見及び国環研の考え方

災害環境研究プログラム

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状についての評価･質問など	災害環境研究では、特に原発災害で被災した福島県を中心とした厳選された研究テーマにじっくり取り組んでおり、今年度も優れた成果があがっていると評価できる。また、実状に対応しながら、今後に起こるべく多様な災害に対応できるように研究が進められていることで宜しいと思う。	本取組について評価いただき有難うございます。アウトリーチ活動も含め、引き続き研究の進展に努めたいと思います。
	地域のレジリエンスを強くするためには、効果的な連携が必要であると考えられ、これらの成果の情報発信の方法などについて具体的な戦略が必要ではないかと考えられる。	地域に向けた成果発信の戦略として、災害環境研究と地域の環境保全に係る他分野（エネルギー、廃棄物等）との連携は重要な観点と考えています。
	放射性物質の県外処分については、受け入れ側に注目したシナリオの研究も必要かもしれない。	放射性物質の県外処分については、受け入れ側に着目したシナリオとして、受け入れ（処分）先のベネフィットや合意形成等の社会的要因を含めた多面的評価を実施する予定です。
	復興について、多様なステークホルダーの意見を聞くプロセスはあるというお話でありましたが、具体的には誰を指すのかということも重要である。帰還率が低い中で、女性、子ども、避難中の方、などの Well-being や自由な意思決定を尊重した上で押し付け型ではないレジリエンスを考えることがとても重要だと思う。	私たちには、女性・子ども・避難中の方、などの政治的影響力を行使しにくい状況にあるステークホルダーの立場を尊重・擁護しながら、浜通りの地域社会における復興や地域政策に向けて、上記を含む多様なステークホルダーが自由に意見を表明できる対話の場・協議の場づくりの仕組みを考え、提案することが求められていると考えています。
今後への期待など	今後、地震に加えて風水害のリスクも高まる中、災害環境学がますます重要になることから、災害環境学確立に向けた取組みの加速を期待する。	ご期待ありがとうございます。本プログラムでの取組と成果を反映させることで、災害環境分野において災害環境学の確立を目指す所存です。
	国際的な研究プラットフォームを構築し、世界的な拠点としての発展を期待する。	海外への発信を積極的に進める中でコミュニティの形成を図り、プラットフォームの構築を目指していく所存です。